

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200830		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	和歌山県岩出市山591番地		
自己評価作成日	平成25年5月1日	評価結果市町村受理日	平成25年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3071200830-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性を大切にしてお宅におられたときのように過ごしてもらい、日常生活の中で自分の出来ることを発揮して頂き、張り合いのある生活を過ごせるよう支援しています。また、利用者ご家族との関係を大切にし、ご家族の方に行事参加の声掛けをさせていただき共に支え合う支援に繋がっています。1階にはデイサービスを併設し、合同で行事をしたり、日常でも行き来が自由にできるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、通所介護施設が併設しており日常的に交流しています。『誰もが利用したいホームを目指す』と理念に掲げ、管理者が中心となり、言葉遣いや利用者との接し方、対応方法など適切であるか、日々のケアを振り返り理念の実践に向けて取り組んでいます。また、職員は家族も一緒になって共に利用者を支えたいと考え、家族が参加する行事は、温かい雰囲気となるよう心がけ、家族との協力や信頼関係の構築にも力を注ぎ、誕生日会には、孫やひ孫を連れて参加される家族もあります。職員は、食事時の団らんがコミュニケーションを引き出す機会となり、家庭的な雰囲気を味わえる大切な時間と考え、利用者と職員が同じテーブルで、ゆっくりと会話を楽しみながら、皆で食事の団らんを楽しめるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時や日々の業務の中でその方にとって何が大切かを話し合う機会を持ち、理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。	法人の理念を基に、ホーム独自の理念「誰もが利用したいホームを目指す」と掲げています。理念について、職員間でミーティングや日々の具体的なケアについて話し合う中で、常に理念を大切な原点として共有し、やさしい声かけを心がけて日々のケアを実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩に出かけた際には、挨拶を交わし交流を持ち、自治会に加入し、地域の方から夏祭行事参加の声かけをして頂ける機会も増え、参加させていただいている。	自治会長より地域の情報を得て、地区の夏まつりや秋祭り、ゴミ拾いなどに参加しています。地域の行事を通し顔なじみとなり、地域住民や小学生と声を掛け合ったり、気軽に挨拶を交わすなどの機会が増えています。中学生の職業体験の受け入れや、ボランティアの訪問があり、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に関する知識について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から活動状況、入居者の状況、職員研修について等の報告を行い、参加者からは質問や意見、要望を受け地域との交流を図りサービスの向上に繋がるよう努めている。	行政や地区会長、民生委員、家族などの参加の下、2カ月に1度開催しています。テーブルやソファの配置など変える工夫をし堅苦しくならないよう配慮し、意見が出やすい雰囲気作りを心掛けています。認知症サポーターの講座の話が行政からあったり、家族から消防に関する質問が出るなど、活発な意見交換の場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時にホームの状況や入居者の状況を積極的に伝えている。	運営推進会議の案内を届けに行ったり、認定更新時や相談ごとなどを通し、利用者の状況、ホームの状況など市へ出向いて報告を行うなど、担当者との協力関係が築かれています。市担当者の配属に変更があった時もスムーズに引き継ぎがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に身体拘束に関しての研修にも参加し、事業所内でミーティング時等に話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について外部や内部研修に参加して職員間で周知し、拘束しないケアに取り組んでいます。玄関は施錠せずに利用者の様子を見守り、出られる時は付き添っています。言葉かけが拘束に繋がることや、他の事業所の事例も取り上げ、ミーティングなどで積極的に話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し学ぶ機会持っている。ミーティング時には研修内容をフィードバックし、職員間で話し合い虐待防止に努めている		

グループホーム のぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加している。また、必要な方には支援を行い、関係者と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を持ち、入居者、ご家族等の不安や、疑問点等に説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族と信頼関係を気づき、意見や不満等を言いやすい雰囲気を作り、日々の業務に繋げている。ご家族に対してアンケートを実施し、出された意見を職員間で話し合い反映させている。	訪問時に状況を伝えながら意見を聞いたり、電話でも聞いています。家族会や誕生会、運営推進会議などの来訪時に意見を聞く機会を作り、意見が出やすい雰囲気づくりを心がけています。年1回、アンケートを行い、要望などが出やすい方法がないかなどを検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、職員が自発的に意見、質問を出しやすい雰囲気を作り、職員間で話し合いサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。	管理者は、月1回のミーティングの他、休憩時間や、夜勤明けの職員の様子をみながら、意見を言いやすい雰囲気を心掛けて個々に聞いています。職員からは、利用者の関わり方やケア上の相談が出されています。外出支援について出された意見をサービスに反映するなど、職員間の話し合いの場を大切に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々にやりがいを持ち、力が発揮できる環境作りに努め、人事考課等職員個々に向上心をもって働ける職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修にできるだけ多く参加できるよう働きかけ、研修後にはフィードバック研修を行っている。また職員個々に業務でのチェックリスト項目で自身のケア等を見直し、職員個々の向上に繋がる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握に努め、ご本人の思いや不安を聞く機会を持ち安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な思い、要望を聞く機会を持ち、見学や訪問をして頂き雰囲気を見て頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いや状況を把握し、必要とされている支援を見極め必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	挨拶や会話を大切にし、食事作りや洗濯物たたみなど生活の中で一緒にいきコミュニケーションを図り、得意な事を発揮して頂き共に過ごす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話、行事参加などでご本人の様子や暮らしぶり、体調の変化など細かく伝え、情報を共有し、ご家族と共に支え合う支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけご自宅におられた時のように過ごして貰えるよう慣れた病院に通院したり、馴染みの場所が途切れないよう、家族と相談しながら支援している。	お不動さん参りや神社へ出かけたり、家族の協力を得て、墓参りや帰宅をしています。遠方の親戚の方や友人の来訪時に部屋にお茶を出すなど配慮しています。また遠方の家族、友人への手紙のやり取りや電話の取り次ぎなどの支援も行い、これまでの馴染みの関係が継続できる支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話などから利用者同士がどう関わっているか、利用者同士の関係性について情報を共有し、利用者同士の関係が円滑になるよう努めている。		

グループホーム のぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方にも、遊びに行く等関係を断ち切らず付き合いを大切にするよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはご家族さんに、今までの生活の状況を聞き意向の把握に努めている。また、日々の生活の中で、ご本人の言葉や行動から希望や思いを把握するよう努めている。	入居時に、家族に生活歴や希望、要望などを聞き、アセスメント用紙に書いてもらったリ、聞いた情報を職員も記載しています。入居後は利用者の声や様子、表情、行動などを記録し、日々の関わりで得た情報を共有しながら意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居時に家族に記入して頂いたり、訪問時に情報を得るなど暮らし方や生活環境の把握に努めている。また、以前のサービス利用施設との連携をとり情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れに添って、細かく記録に残し職員間で共有し、その人の暮らし方や生活リズムを知り、日々の行動や発言から全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で職員全員の意見と家族の方に説明し要望、意見を聞き介護計画を作成している。介護計画に沿った支援を職員全員で統一させている。	利用者の発した言葉と行動が詳細に書かれた記録やアセスメント用紙、職員の意見と家族、本人の思いを基に介護計画を作成しています。毎月のケース会議で、職員間でモニタリングを行い、3カ月ごと介護計画を見直しています。また、主治医の意見も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の生活記録に記入、また申し送りノートへ記録を行い、職員間で共有しケース会議で見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その日の状況に応じて柔軟な支援を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験受け入れや地域のボランティアの方に来て頂いたり、また、行政、民生委員、区長の方との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の方の希望されるかかりつけ医院となっており、受診や通院は希望により対応している、ご家族が同行不可能な時には職員が代行している。	往診はなく、これまでのかかりつけ医や歯科、専門医への受診をしており、基本的には家族が付き添い、状況によっては職員が受診の支援をする時もあります。主治医と情報交換を行い、夜間や急変時など、主治医または協力医と連絡を取り24時間対応しています。併設の通所介護の看護師に相談することもあり、利用者の健康管理をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護職員と連携を取っており、入居者の状態変化に応じ相談しながら健康管理の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者に、日々の状況などご家族と相談しながら情報提供している。また、入院中は職員が頻繁に見舞い、早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や医療が必要になったきた時には、早い段階からご家族と医師と相談し事業所での最大限の対応が出来るよう取り組んでいる。	ホームでの看取りは行っていない旨を入居時に伝え、ホームの方針について説明しています。生活している中で、入浴や食事摂取状況が変化し重度化してきた場合は、早い段階から主治医と職員が話し合い、主治医から家族に伝え話し合っています。ホームで対応が困難な時は、他事業所や病院への転居に向けての支援も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講習会に参加し、急変に対応できるよう努めている。また、事業所内でも勉強会などの機会を設け、緊急時の対応などについて学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、地域の消防団と一緒に避難訓練を実施し、消化器の使い方や避難経路のアドバイスを頂いている。	避難訓練は、消防署の立ち会いの下と、自主訓練を1回ずつ、併設の通所介護施設と合同で行っています。通報、初期消火、非常階段での誘導の訓練などを行い、地域の消防団や家族の参加もあり、ホームの造りを知ってもらう良い機会となっています。また、運営推進会議の議題に挙げています。	

グループホーム のぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの思いに寄り添い、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し、声掛けに注意し、人生の先輩としての言葉掛けを行っている。	接遇マナーや認知症ケアの在り方などの研修やミーティングで、尊厳やプライバシーについて職員間で周知し、言葉遣いについて常に話し合っています。声のトーンや丁寧な声かけなど、目上の方を尊敬した対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の食べたい物を聞きメニューに取り入れたり、外出や入浴等入居者個々の意思に沿って支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や希望に合わせ、その日らしい生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの能力に合わせ、自己決定できる方には本人の好みでおしゃれができるよう支援し、自己決定しにくい方には一緒に選んで頂く等支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせ、調理、盛りつと一緒に食事の準備を行っている。季節の食材を取り入れ、また庭に出て昼食を楽しんだり、バイキング形式で食べたい物を食べて頂いたり、食事が楽しめるよう工夫している。	冷蔵庫に保管している食材から、希望を聞きながら献立をたて、利用者と一緒に調理し、食事づくりを楽しんでいます。菜園の野菜を使う、外食、弁当を持って出かけるなど食事が楽しみとなるよう工夫し、大きなテーブルを囲んでの食事が、職員と一緒にの団らの時間となり、会話を楽しむ時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士に食事内容をチェックしてもらい指導を受けている。一人ひとりの食事量を記録し、水分量、食事量とも1日を通して確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や、就寝時に一人ひとりの状態に合わせた見守りや介助を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方に対しは誘導を行いトイレでの排泄を促し、自立に向け取り組んでいる。	個々の排泄パターンを把握し、早い目に声をかけたり、表情やサインを見逃さないようにして耳元での小声の声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。利用者の様子を丁寧に観察した排泄の支援で紙パンツから布の下着に変更した方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、食事で繊維の多い食材、乳製品を摂取して頂き、運動に心掛け、便秘予防に取り組んでいる。また、主治医に相談し便秘薬を服用してもらい調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ毎日入浴して頂ける環境を作り、一人ひとりの体調、希望に応じ入浴して頂いている。	入浴の時間帯は15:00～17:30間で毎日入浴できるよう支援しています。希望に沿い毎日入浴される方やご本人の体調などで毎日入浴されない方もおられますが、要望があれば職員体制を考慮し、他の時間帯の入浴も可能です。気の合った方と入ったり、入浴後の冷たい飲み物を用意することで利用者に喜ばれ入浴が楽しなものになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、日中も休んで頂いたり、就寝時間も個々に合わせ休んで貰えるよう取り組んでいる。寝付けない方に対しては話しに傾聴し安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、通院ノート、服薬表に内容を記入し、変更があれば申し送りを行い、職員間で情報を共有している。生活状況表に服薬を記入し、症状の変化に合わせ、ご家族、主治医に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、生活の中でできることとして頂き力が発揮できるよう支援している。また趣味や、楽しみ事を把握し、楽しみのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、散歩の機会を多くつくり、花見や遠足、庭でのランチなど楽しめるよう支援している。花見や遠足などの外出にはご家族の方にも声を掛けさせて頂き共に支援している。	ドライブや散歩、買い物、庭で過ごす、花や野菜の水やりなど日常的に外出し、戸外で過ごせるように努めています。季節ごとの花見や遠足の行事には、家族への参加を呼びかけ一緒に楽しめるよう支援しています。	

グループホーム のぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て事業所がお金を預かり管理しているが、能力に応じ支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ自由に電話をかけて頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り、食べ物を取り入れ季節感を感じて頂けるように工夫し、安全面に配慮し、一人ひとりが居心地の良い空間作りに努めている。	皆で作った季節の飾り物やホームで咲いた花から季節が感じられるように配慮しています。廊下や玄関入り口に畳みのベンチやソファ、椅子が所々に置かれ、居心地よく過ごせる空間があります。中央のソファは、移動される方の安全面も配慮した位置に設置したり、温度や湿度管理を行い、空気の流れ換や、空気洗浄器を設置するなど居心地の良い共用の空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子やソファを置き、好みの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んで頂いたり、一人ひとりが居心地よく安心して、過ごして頂ける居室作りに取り組んでいる。	それぞれ居室の入り口に暖簾が掛けられています。ベットとクロゼットは備え付けですが、机、テレビ、たんすなどが持ち込まれています。今までの使い慣れた毛布やシーツ、枕カバーも愛用していたものを使用され落ち着いて過ごせる個性的な部屋になっています。家族の写真や遺影、亡夫の過去帳を持参されるなど、ホームで安心して過ごせる空間づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差をなくし、手すりを配置し安全に過ごして頂けるようにし、トイレ、浴室、居室がわかるよう表示させて頂き自立した生活が送れるよう工夫している。		